

水道事業基本計画及び 中期経営計画策定に向けた取組

仙台市水道局南配水課

1. はじめに

仙台市水道事業は、大正12年の給水開始以来、人口増加や都市の発展に応じた拡張を行いながら、安全で良質な水道水を供給することで、杜の都 仙台の市民生活、都市機能、産業活動を支えてきました。

近年、水道事業を取り巻く環境は大きく変化し、全国の水道事業体で、水需要の減少、施設の老朽化、担い手不足等の課題に直面しています。こうした課題に対応し、将来にわたって水道事業を持続していくためには、さらなる経営改善策を講じる必要がありました。

そこで、仙台市水道局では、令和元年度に水道事業の今後10年間の施策の基本的方向性などを示す「仙台市水道事業基本計画」（以下、基本計画）と、その方向性に沿った具体的な取組みを推進するための「仙台市水道事業中期経営計画」（以下、中期計画）を策定しました。

今回記述するのは、計画自体の内容ではなく、計画策定に向け実施した各種取組みをご紹介します。

2. 計画策定段階での各種取組

水道事業を取り巻く事業環境の急激な変化に対応するため、水道局職員が丸となって水道事業の運営に携わり、より実効性の高い計画とすることや職員意識の向上を目的として、計画の各段階で色々な取組みを行いました。

計画の全体構成と、その各段階での取組みは以下の通りとなっています（図1）。

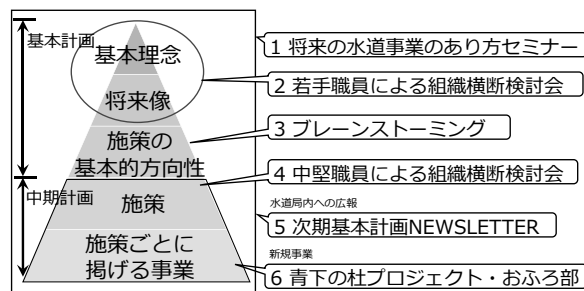


図1 計画の体系と策定に向けた各種取組み

(1) 将来の水道事業のあり方セミナー

計画策定に当たっては、主に計画策定に関係する部署だけではなく、水道局全体で将来の水道事業のあり方を考えることが重要であることから、水道に関する最新の知見や事例などを有する様々な講師の方からご講演いただく「将来の水道事業のあり方セミナー」を開催しました（図2）。

厚生労働省等の行政機関関係者や大学の教授など様々な分野の学識経験者にご講演をしていただき（表1）、全8回の開催で、延べ約500人の職員が参加し、セミナー後のアンケートでは、概ね9割以上の職員が「満足・理解した」という結果を得ました。



図2 将来の水道事業のあり方セミナー

表1 講演タイトル

第1回	水道をめぐる動向について
第2回	水資源・水循環からみる水道事業
第3回	水道事業の民営化と広域化を考える
第4回	Society5.0の実現と建設分野の役割
第5回	香川県における水道広域化について
第6回	「知らせる」から「参加」そして「合意形成」へ
第7回	管路耐震化あれこれ…
第8回	水道事業を取り巻く環境と広域連携による基盤強化

(2) 若手職員による組織横断検討会

将来水道局を担う若手職員が計画策定過程に参加することで、基本計画・中期計画に対する理解の深化や、業務遂行に対するモチベーション向上を図ることを目的に若手職員による組織横断検討会を設置しました。本検討会は、ポスト係長未満の職員を対象とし、若手職員38名が参加しました。

複数のグループに分かれ、本市水道事業の現状や課題、将来の事業環境予測、財政シミュレーション、お客さま意識調査結果などについて約半年で全3回の意見交換等を実施し(図3)、グループごとに基本計画の基本理念や将来像などを提案しました。

本検討会の提案をもとに、局内で検討を進め、基本計画の基本理念「未来へつなぐ杜の都の水の道 ~市民・事業者との協働~」などを創り上げました(図4、5)。



図3 若手職員による組織横断検討会

未来へつなぐ杜の都の水の道 ~市民・事業者との協働~

仙台の水道は、大正12年に給水を開始して以来、市民生活や都市活動を支える重要なライフラインとして、仙台市の成長と発展を支えてきました。令和5年度には、給水開始100周年を迎えます。今後の100年の未来にも、仙台の水道を引き継いでいくために、市民・事業者の皆さまと、これから迎える人口減少社会における様々な課題に協働して取り組んでいきます。

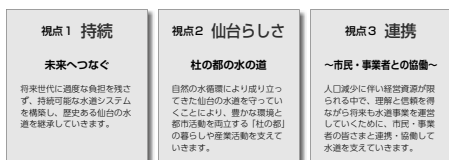


図4 基本理念

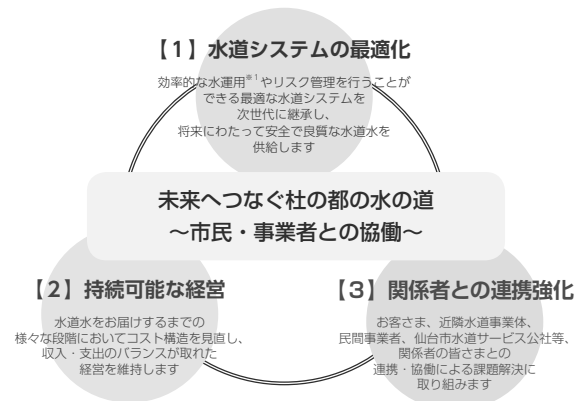


図5 将来像

(3) ブレインストーミング

局内各部長をコーディネーターに、テーマごとにブレインストーミングを実施しました。

基本計画で掲げる「将来像」や「施策の基本的方向性」を達成するために、課題の抽出や掘り下げを行い、その解決策として具体的な施策や事業等について意見交換等を実施し、80を超えるアイデアが集まりました。

(4) 中堅職員による組織横断検討会

中期計画に掲載する具体的な施策や事業等について、現在の担当業務に限らず、組織の枠を超えた広い視点で検討することを目的に中堅職員による組織横断検討会を設置しました。本検討会は、各部長の指示のもと、ポスト係長43名で実施しました。

(3)のブレインストーミングで抽出された課題への解決手法のアイデアの中で、特に今後重要だと位置付けた6点について、実現性や具体的なスケジュールの検討等を行い(図6)、その結果をもとに中期計画を作成しました(図7)。



図6 中堅職員による組織横断検討会

施策体系一覧

12 施策の基本的方向性



24 施策



44 事業

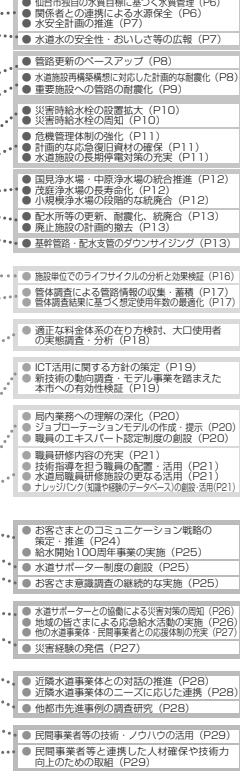


図7 基本計画及び中期計画の施策体系一覧

(5) 次期基本計画NEWSLETTER

局内での計画策定の進行状況や、各分野の有識者7名で構成する「仙台市水道事業基本計画検討委員会」での検討状況等を盛り込んだ全10回の「次期基本計画 NEWSLETTER」を局職員へ配信し、基本計画に対する関心や理解を深めました(図8)。



図8 次期基本計画NEWSLETTER

(6) 市民・事業者との協働

基本計画において「関係者との連携・協働」を進めることとしたことから、協力企業と連携して水源涵養林の保全に取り組む「青下の杜プロジェクト」や、産学官連携により水道水の有効利用を促す取組みである「おふろ部」を新たな連携事業として開始しました(図9、10)。



図9 青下の杜プロジェクト



図10 おふる部

3. 計画策定後の取組

計画策定の翌年には、局職員一人一人が当事者意識をもって、水道事業の現状を理解した上で、基本計画等の進捗管理や事業内容の見直しに主体的に関わっていけるよう、また将来の基本計画等の策定を見据えた局職員の育成という観点も踏まえ、局内全部署を対象に基本計画等の説明会を全20回268名の職員に実施しました（図11）。

実施後のアンケートでは、約9割の参加者が有意義であったと評価し、さらに、「全体計画・方針について理解を深めることができた。作成した人からの説明は大変わかりやすかった。」や「局全体で取り組んで行きましょうという思いが伝わってきた。」「職員からの質問が多く、難しい質問にも答えていただき、楽しく有意義な時間となった。」などの多くの前向きな意見がでました。



図11 浄水場事務室での開催状況

4. おわりに

基本計画等の策定に際し、局職員が一丸となって水道事業の運営に携わり、より実効性の高い計画とするため、各種取組みを試行錯誤しながら進めてきました。

今後は職員一人一人が、基本計画等の進捗管理や事業内容の見直しに主体的に関われるよう、また、次の基本計画等の策定を見据えた局職員の育成という観点も踏まえ、様々な機会を捉えて基本計画等の周知等に努めていきたいと考えています。

最後に、計画策定に当たり沢山の方々のご協力あつてのことと、心より感謝申し上げます。

- ・基本計画及び中期計画の詳細は、以下のQRコードからご覧ください。



- ・青下の杜プロジェクト及びおふる部の活動詳細は、以下のQRコードからご覧ください。



- ・ご質問等がございましたら以下のアドレスにご連絡ください。

hiroshi_nishizawa@city.sendai.jp